



令和6年6月28日
はなほこども園

看護師 *****

7月ほけんだより

夏になると、蚊に刺される機会が増えます。子どもは新陳代謝が活発なので、刺されやすく、肌が弱いと症状が強く出てしまうことがあり、かゆくてつい引っかいてしまいます。蚊に刺された時の対処法や、身近にいる危険な虫や、注意したほうが良いことを知っておきましょう。



蚊に刺された時の対処法



蚊に刺されてしまった場合は、

- ①刺されたところを水で洗い流して清潔にします。
 - ②かゆみを軽減させるには、水でぬらしたタオルや保冷剤などを使用して、冷やすことがおすすめです。
 - ③必要に応じて、かゆみ止めを塗りましょう。
- ※刺されたところをかきこわして細菌に感染してしまうと、とびひになることがあります。



家庭でできる予防対策



- ・虫よけの使用
 - ・肌の露出を少なく
 - ・やぶや草むらに近づかない
- 《園では・・・》
- ・外遊び前にひとりひとりに虫よけを使用
 - ・一日の終わりに各部屋に虫よけを噴霧などの対応をしています。

●●虫よけ剤の注意事項●●

ディートという成分が含まれる場合は、顔には使用しないこと、6ヶ月未満の乳児には使用しないことなど、使用が制限されています。

散歩や外遊びでは、子どもたちはさまざまなものに触ります。ご家庭でも、帰宅後は石けんを使ってしっかりと手洗いをする習慣をつけましょう。



◆◆ハチや毛虫などには注意しましょう◆◆



【ハチ】

ハチは、追い払ったり、巣を刺激したりすると興奮します。巣を見つけたら近寄らないようにして、羽音がしたら静かに離れることが大切です。



【イラガ】

イラガは、ガの仲間です。幼虫は、サボテンのような見た目と毒のとげがあり、刺されると痛みや腫れが出ます。7月から10月頃に幼虫が街路樹などで見られるので、注意しましょう。



【クモ】

カバキコマチグモは、強い毒を持っています。被害は5月から8月に多い傾向があります。ススキの葉を巻いて巣をつくるので、触らないようにしましょう。外来種で毒を持つセアカゴケグモは、全体が黒い色で腹部に赤い模様があります。排水溝の蓋の裏、ブロックのすき間など、狭い場所にあります。かまれると、針で刺すような痛みがあります。



【チャドクガ】

毒針毛は幼虫の時に発生し、マユ、成虫、卵にもついています。刺されると赤い発疹やかゆみが出ます。幼虫は5月から10月にかけてツバキ類で見られます。



【ブユ】

ブユは、水のきれいな溪流に生息しています。刺されてしばらくすると赤く腫れ、かゆみが出こります。5月から10月頃に活動が活発になります。